



平成22年度 FCP
「商品情報の効率的なやりとり」
研究会について

平成22年6月
農林水産省

フード・コミュニケーション・プロジェクトチーム

「商品情報の効率的なやりとり研究会」の目的

消費者の食への信頼向上の為に、事業者間でやりとりされる商品に関する情報は増加しており、フードチェーンの各段階で情報のやりとりに関する作業も増加しています。また、同じやりとりの場面でも多様な関係者の中で立場が異なることから、商品情報のやりとりについての考え方は異なる傾向にあり、問題は複雑化しています。

このため、お互いの立場、考え方の違いを認識しつつ、消費者の信頼確保と情報のやりとりの効率化という目的を共有して課題解決に取り組む必要があります。

本研究会では「協働の着眼点」にもとづき、消費者を起点として、フードチェーン全体で情報共有の手法を研究することにより、事業規模に関わらず、全てのステークホルダーの間で、商品に関する情報(特に品質情報)が効率的にやりとりされるための論点を整理し、協働での対応方向を研究します。

平成21年度分科会での問題提起(一部抜粋)

やりとりする情報の目的(情報の活用方法)が不明確

多様な調達現状から正確性が担保出来ない場合がある(変化する情報)

情報提供出来ない場合がある(ノウハウに関する情報)

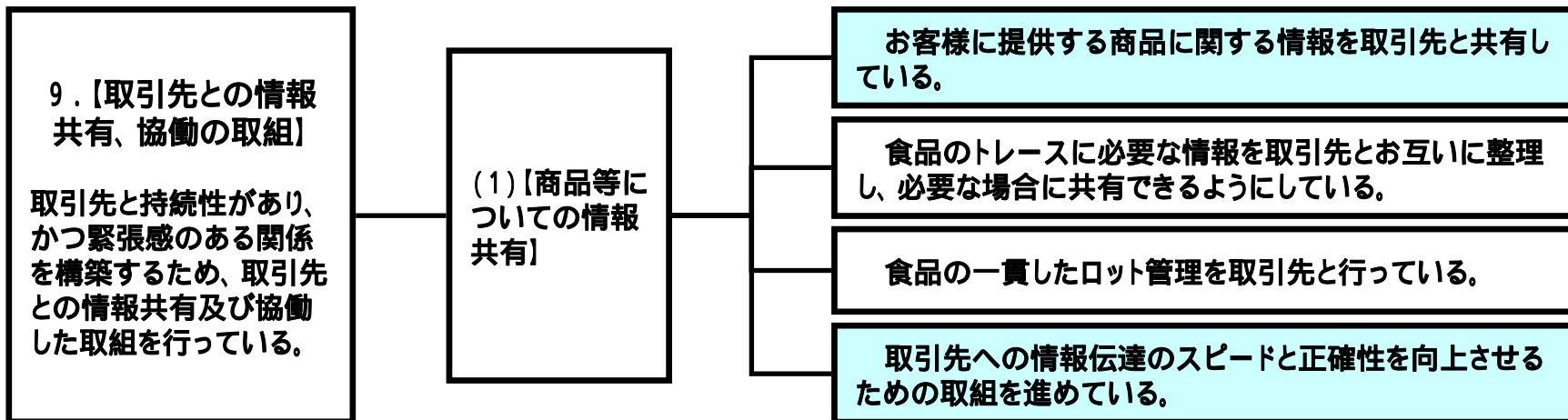
記入出来るお取引先、記入出来ないお取引先の差がある

研究会の進め方

「協働の着眼点」 取引先に関するコミュニケーション

9.【取引先との情報共有、協働の取組】

項目の説明: お客様に安全で適切な食品を安定的に供給し、その信頼を獲得するには、取引先と協力して、商品等の情報を共有することによって、正確な情報をお客様に提供するとともに、商品開発や業務の見直しを行うことが重要だと考えます。



特に小項目のうち

お客様に提供する商品に関する情報を取引先と共有している。
取引先への情報伝達のスピードと正確性を向上させるための取組を進めている。
に関し、事実関係や相互の認識を共有するとともに対応方向について研究します。

研究会の進め方

【方針】

- ・協働で取り組む
- ・積み上げで議論する
- ・小さくても成功例を作る

研究のプロセス

事実の共有

課題の共有

WIN WINの解の模索

お客様に提供する商品に関する情報を取引先と共有している。

取引先への情報伝達のスピードと正確性を向上させるための取組を進めている。

共有している情報の
たな卸し

実際の取組事例の
たな卸し

情報の性質に応じて
整理

取組の目的、手法に応じて
整理

情報のやり取りに関する
課題を抽出

スピードと正確性を向上
させるための課題を抽出

情報共有のあり方について意見交換

協働での対応方向について検討

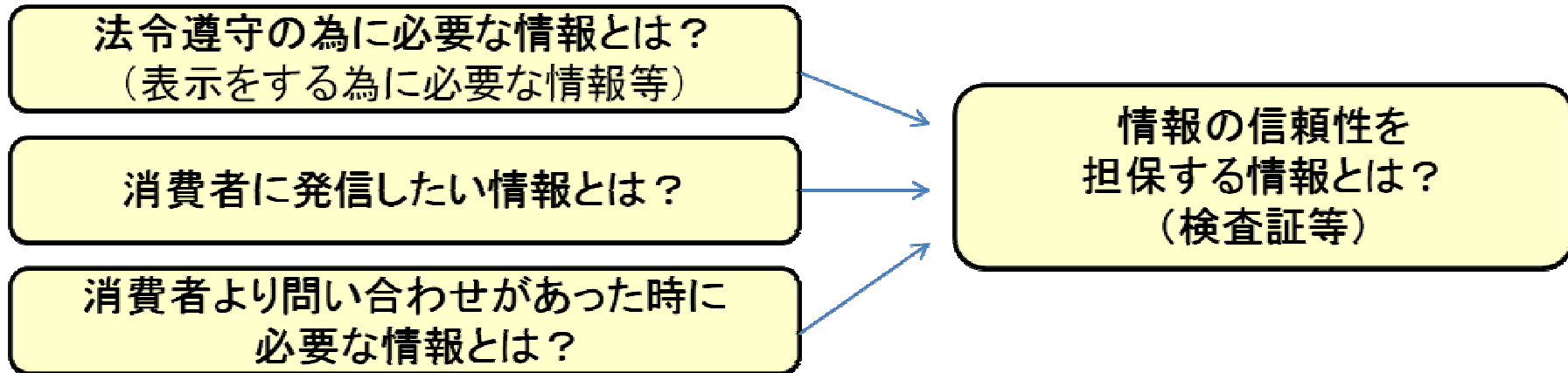
本研究会では協働の着眼点の「商品等についての情報共有」をベースに、消費者の信頼を確保するために、事業者間の情報のやりとりをいかに効率的に行うかという研究を、参加者による積み上げの協働作業により進めます。直接的に仕様書のフォーマットやシステムについて議論することは予定していません。(研究が進むなかで、参加者の希望により議論する可能性はあります)

議論のステップ

Step 1 消費者への情報提供の場面を起点に事業者間でやりとりされる情報の整理

商品包装(パッケージ) お客様相談室(問い合わせ) 店頭 HP公開 等

Step 2 消費者の食への信頼確保の為に、やりとりされる情報を目的ごとに分類



Step 3 分類した情報の持つ特性について整理

機密性 参照頻度 更新頻度 完全性 等

Step 4 情報共有のために必要なマネジメントについて検討する

フードチェーンの各段階で、どのような情報を把握し、共有する必要があるか

情報伝達のスピードと正確性を確保するために、どのような取組が必要か 等

議論Step1 消費者へ発信、提供する商品情報の場面別整理(イメージ)

取引先との情報のやりとりが、最終的にどのような場面での消費者への情報発信、提供につながっているのか。参加者の皆さんのそれぞれの立場で情報のやりとりをたな卸して、認識の共有を図ります。ここから消費者起点での研究をスタートする狙いです。

記入方法

- ・自らの立場で、やりとりしている情報がどのコンタクトポイントで使用されているか、(使用されていると考えているか)記入してください。
- ・複数の立場がある場合は複数の立場で記入してください。
- ・複数のコンタクトポイントがある場合は複数記入してください。

	小売・外食	卸	メーカー	サプライヤー
商品包装 (パッケージ)	(例)アレルギー物質			(例)アレルギー物質
お客様相談窓口 (問い合わせ)		(例)原材料原産地	(例)製造工程情報	
店頭 (販売・POP)			(例)原料原産地	
HP				

記入イメージ

* 記入内容の詳しさや表現については第1回研究会の場などで検討する予定です。

研究会の進め方とスケジュール(案)

研究会:年間5回の開催を予定しています。

(開催回数は研究会での検討状況に応じて変更する場合があります)

・第1回:平成22年7月7日(水) 14:00~17:00 (詳細は別途ご案内します)

平成22年度研究会の進め方、およびグループディスカッション

東京大学との共催セミナー:年間2回を予定しています。

・研究会の取組、成果報告を発表する予定です。

